

魅力ある都心のまちづくりが 始まっています

札幌市では第4次長期総合計画を受けて「都心まちづくり計画」と「札幌都心地区中心市街地活性化基本計画」を策定しました。

「まちの顔」である都心の魅力と活力を高めるために市民・商店街・行政などさまざまな主体が協働でまちづくりを進めるための枠組みが整ったといえます。

これらのまちづくり計画の概要を紹介します。

新しい都心づくりがスタート

二十世紀後半の札幌では、急成長する人口・産業を支えるための都市基盤の整備が積極的に行われ、二十世紀初めの現在、今後の都市活動を支え得る水準には達していません。これからのまちづくりに必要なのは、そうした基盤を有効に活用し、市民生活の向上を目指すことです。そのためには、消費・文化・娯楽・ビジネス・居住といったさまざまな面で、多様な選択のできる都心が必要になります。

また、人口百八十万人を超えた札幌が、世界的な都市としてこれまで以上に確固たる地位を築いていくためには、「まちの顔」となる都心部が質の高い生活の場であるだけでなく、札幌の特質や美しさなど街の魅力を表現する場であり続けなければなりません。「まちの顔」ともいえる都心の魅力と活力をこれまで以上に高めることが、さまざまな来訪者との交流を活性化させ、新たな産業を育成していくことにもつながります。そして何より、札幌独自の都市文化の創造が期待され、さらなる市

都心まちづくり計画の主なポイント

- 骨格軸**
都心のまちづくりを効果的に展開するための基軸となる通りやその周辺
- 交流拠点**
新たな活動や交流を生み出すポイントとなる、骨格軸の交点や交通結節点
- ターゲットエリア**
軸・拠点と連動したまちづくりの積極的な展開が望まれる地区
- まちづくり促進地区**
都心まちづくり計画のパイロットプロジェクトとなる地区(8ページ参照)



民生活の質の向上にも結び付きます。そんな新しい都心づくりを実際に進めるためには、市民、企業、商店街組織、NPO(民間の非営利)から意見とアイデアを出し合い、協働でまちづくりに取り組むことが不可欠です。